

# 言語聴覚士学科

## 教育目的、目標・方針

平均寿命が伸び続け、また病院での救命率も向上する中で、障がいを持ちながら生活している人が増えている。それらの人々が障がいを持っていても「住みなれた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続ける」ことができるように、より質の高い、専門的な支援が求められている。その中でも特に「人と人との関わり」「食べること」は人間の尊厳に関わることであり、言語聴覚士が果たすべき役割は大きい。患者、家族のみならず、他職種と協働して地域に貢献できる言語聴覚士の養成が強く期待されている。

### 目的

高い倫理観、専門性とコミュニケーション能力を兼ね備え、障がいを持つ人々の社会参加を促し、地域社会に貢献できる言語聴覚士を養成する。

### 目標

1. 様々な環境・人間関係に対して柔軟に対応できるコミュニケーション能力を養う。
2. 人の話を傾聴し、人の気持ちを察し、その人を理解することができ、行動できる能力を養う。
3. 幅広い知識と人間性を身につけ、他職種と連携して働くことができる基盤を養う。
4. 専門職としての自己の能力を客観的に評価し、自己研鑽を積むことができる基盤を養う。

### 方針

#### 「ディプロマポリシー」

- 1) 言語聴覚士として障がいを持つ人の思いを理解し、誠実に努力できる能力を有していること
- 2) 言語聴覚士としての知識・技術を有すると共に、他職種と協働して患者を支援できる能力を有していること
- 3) 言語聴覚士の役割と責任を理解して、社会・地域において言語聴覚療法を実践できる能力を有していること

#### 「カリキュラムポリシー」

- 1) 言語聴覚士に求められる高い倫理観、社会性とコミュニケーション能力を養う
- 2) 自ら主体的に学び、継続して努力できる人材を育成する
- 3) 障がいを持つ人々や家族との交流、地域や施設での演習を通して、実践力を養う
- 4) 言語聴覚士としての専門知識や技術を修得し、即戦力となる人材を育成する

#### 「アドミッションポリシー」

- 1) 障がいをもつ人々や家族の思いに共感でき、その人々の人生を支援したいという気持ちを持てる人
- 2) 人に関心があり、協調性をもって様々な人とコミュニケーションが取れる人

- 3) 多くの医学知識や技術の習得に探求心を持てる人
- 4) 社会・地域の中で、リハビリテーションの専門性を活かして活躍する意欲のある人

## 取得資格

言語聴覚士国家試験受験資格、大学編入学資格

## 就職分野

病院（リハビリテーション科、耳鼻咽喉科など）、リハビリテーション関連施設、クリニック、  
児童通園施設（肢体不自由、知的障害）、社会福祉施設、医療機器メーカー等

## 付与される称号

専門士（医療専門課程）